

平成18年度 春季展

# 加越の橋

平成18年4月11日(火)  
～6月25日(日)



「卯辰山開拓図繪 甕橋」(K7-177)

金沢市立玉川図書館 近世史料館

## 『加越の橋』展 開催にあたって

加賀藩領内の河川・用水には大小数え切れないほどの橋が架けられていました。幕末の金沢城下でも「金沢道橋帳」(嘉永5年・1852)によると、普請会所に属する道橋方が管理していたのは約210橋、これには城内の橋や、犀川・浅野川に架かる橋などは含まれていません。また、大きな屋敷地内の橋、外惣構堀の升形橋の近くには戸々の町人が惣構堀に架けるなど私的な橋も含まれていません。

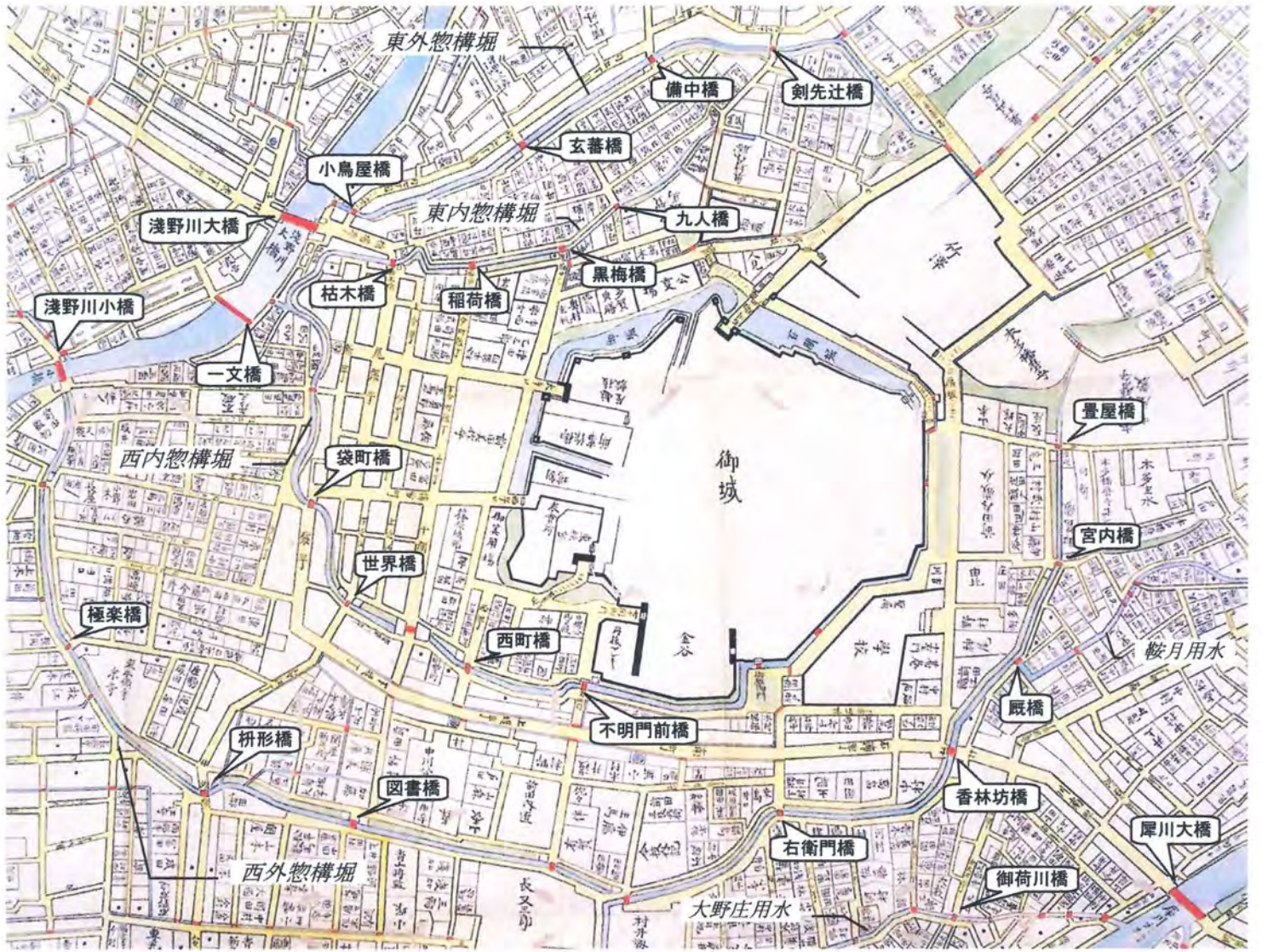
犀川・浅野川両大橋に関する史料の最初は、文禄3年(1594)で藩祖利家の頃であり、その後、幾度も架替えられ、今日に至っています。橋の新設や架替えの時は「渡り初め」の儀式が行われたこともありました。

橋の種類は多様です。史料上では材や形態で表現されることが多く、「道橋帳」では「石橋・土橋」はみられますが、木の橋は「橋」とのみ記されています。「道橋帳」に記された城下の橋の約95%は木の橋でした。橋の長さは河川・用水の広さを示し、幅については、ある程度の規格が窺えます。7尺の橋が最も多く、10尺、2間、3間などです。犀川大橋から浅野川大橋に抜ける通りの橋の幅は、両橋を含め香林坊橋・袋町橋・枯木橋は何れもほぼ3間です。幅の大小は河川・用水・堀によるのではなく、「通り」に関連しているようです。石橋は少なく8橋、そのほとんどは長さ6尺以下の短い橋です。土橋は更に少なく4橋でした。

土橋の基本構造は木橋とほぼ同じです。「袖裏雑記零余録」には、歩く面を土敷にした橋のことで、水に強い草檣(ヒキ)の橋より安価であるが、長期耐久性が低く、入手しやすい松ならば費用は土橋と変わらず、土橋より耐えるとされています。しかし、儉約のため小さな橋を土橋にするよう命ぜられるなど一般的には木橋より安価であったようです。

橋の形態では、「舟橋」や「埴(刎)橋」があります。橋脚を立てただけなど特別な形態でないものは「橋」とされています。「舟橋」は舟を並べその上に板を渡したもので、仮橋であることが多いのですが、富山城脇の神通川に架けられた舟橋は、48艘とも言われる舟を並べた常設の橋であり、越中の名所ともなった橋でした。埴橋は谷が深く橋脚が立てられない河川に架けられた、山間部に多い橋です。越中黒部川に架けられた愛本橋は、山口県岩国市の錦帯橋・山梨県の猿橋とともに日本三奇橋の一つとも呼ばれています。その他、材や形態以外に、橋は常設の橋に対する舟橋のような「仮橋」、無料の橋に対する「一銭橋」や「一文橋」と呼ばれる有料橋も史料には出てきます。

橋にはその他に名前の由来であるとか「七つ橋渡り」などの民俗的な側面もあります。平成18年度春季展として、それらすべてを取り上げることはできませんが、当近世史料館所蔵の史料の中から、藩政期の橋の姿の一端を紹介していきたいと思えます。



金沢図(大1002) 天保期頃 部分 一部改変

全澤橋架ノ名

粟乃橋 浅野川大橋ノ下  
 松乃橋 大橋ニ有  
 神乃橋 五口ノ端ニ  
 舟乃橋 油車  
 矢根橋 卯辰橋ノ下  
 石乃橋 小川ノ下  
 丸乃橋 卯辰橋ノ下  
 香林坊橋 卯辰橋ノ下  
 厚川大橋 卯辰橋ノ下  
 御荷川橋 卯辰橋ノ下  
 右衛門橋 卯辰橋ノ下  
 不明門前橋 卯辰橋ノ下  
 西町橋 卯辰橋ノ下  
 世界橋 卯辰橋ノ下  
 袋町橋 卯辰橋ノ下  
 一文橋 卯辰橋ノ下  
 浅野川小橋 卯辰橋ノ下  
 浅野川大橋 卯辰橋ノ下  
 小鳥屋橋 卯辰橋ノ下  
 玄善橋 卯辰橋ノ下  
 備中橋 卯辰橋ノ下  
 剣先辻橋 卯辰橋ノ下  
 東外惣構堀 卯辰橋ノ下  
 東内惣構堀 卯辰橋ノ下  
 西内惣構堀 卯辰橋ノ下  
 西外惣構堀 卯辰橋ノ下  
 極楽橋 卯辰橋ノ下  
 枳形橋 卯辰橋ノ下  
 図書橋 卯辰橋ノ下  
 大野庄用水 卯辰橋ノ下  
 鞍月用水 卯辰橋ノ下  
 置屋橋 卯辰橋ノ下  
 宮内橋 卯辰橋ノ下  
 既橋 卯辰橋ノ下  
 香林坊橋 卯辰橋ノ下  
 厚川大橋 卯辰橋ノ下  
 御荷川橋 卯辰橋ノ下  
 右衛門橋 卯辰橋ノ下  
 不明門前橋 卯辰橋ノ下  
 西町橋 卯辰橋ノ下  
 世界橋 卯辰橋ノ下  
 袋町橋 卯辰橋ノ下  
 一文橋 卯辰橋ノ下  
 浅野川小橋 卯辰橋ノ下  
 浅野川大橋 卯辰橋ノ下  
 小鳥屋橋 卯辰橋ノ下  
 玄善橋 卯辰橋ノ下  
 備中橋 卯辰橋ノ下  
 剣先辻橋 卯辰橋ノ下

金澤雨火橋之濫觴御印著  
 冰塵仁氣所持信 言徳院御印著西  
 上ノ先小大船を通過し一ノ舟人  
 と別ノ一被を扱水と知るハ法か一成  
 中ノ一ノ舟 橋本三助 三子信と云セ

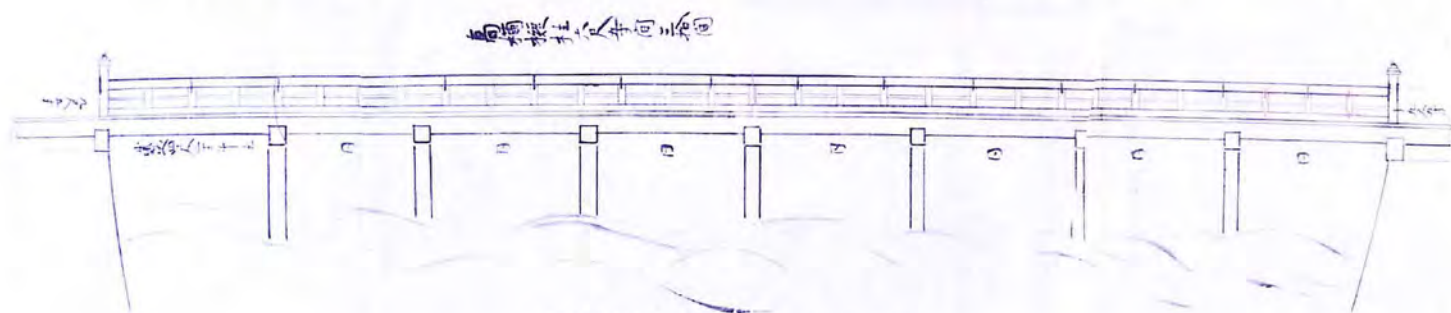
西川・浅野川橋手伝の事  
 西川・浅野川橋手伝の事 能別一ノ又加品  
 小かく一被を扱水と知るハ法か一成  
 橋本三助 三子信と云セ

文禄三  
 (一五九四)  
 尾山町  
 年寄中

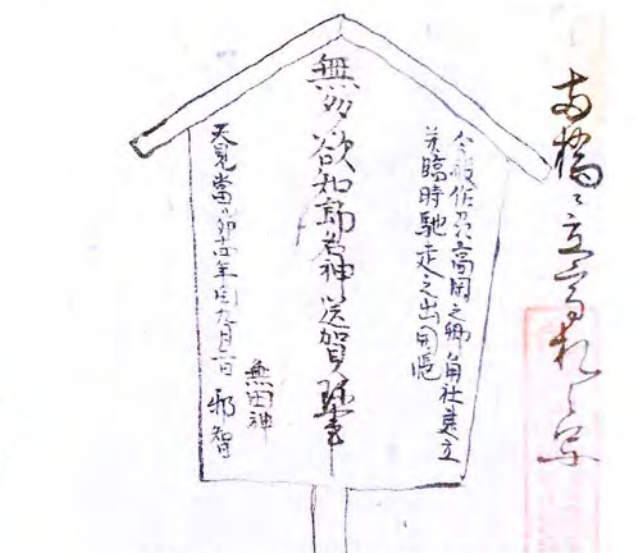
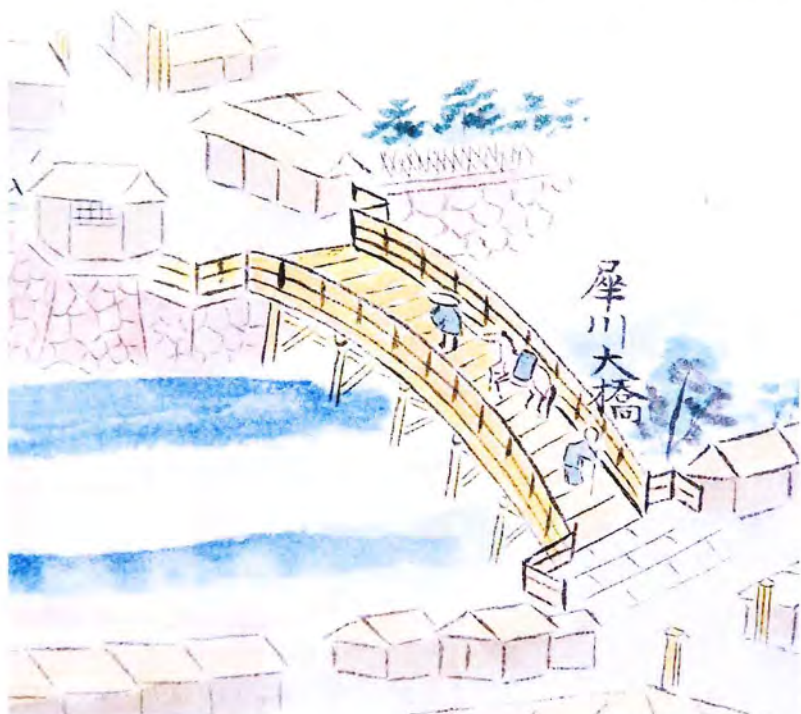
温故集録(16. 28-71)19 部分



金沢町絵図(090-1034)24 部分 文化8年(1811)



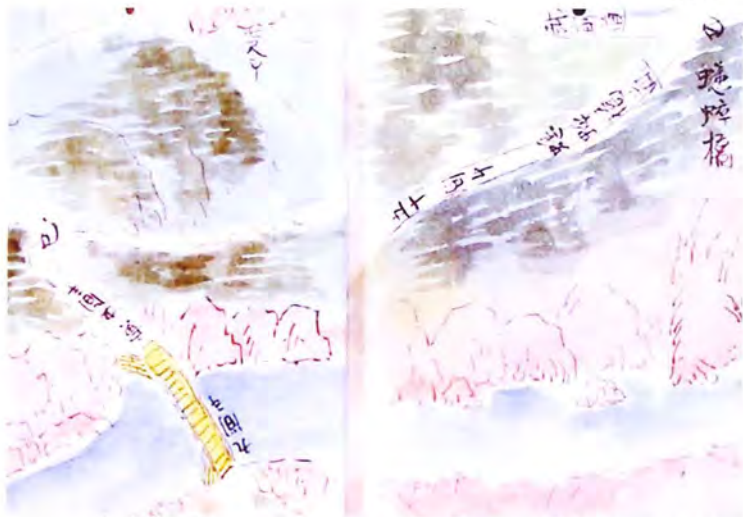
浅野川大橋之図(18. 6-67)



両橋二立高札之写(18. 6-92) 部分  
 出開帳の案内

犀川大橋ヨリ大滝マテ里程之覚(16. 84-60) 部分

刎橋



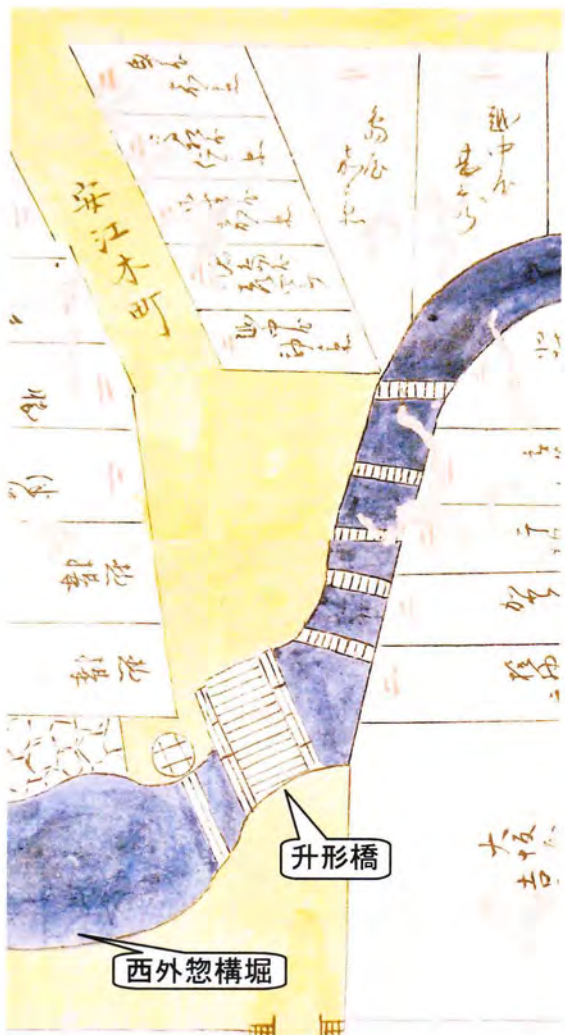
山中行記(16. 93-38) 部分 蟋蟀(カササギ)橋



白山史図解譜(16. 93-27) 部分  
手杵(テギネ)橋

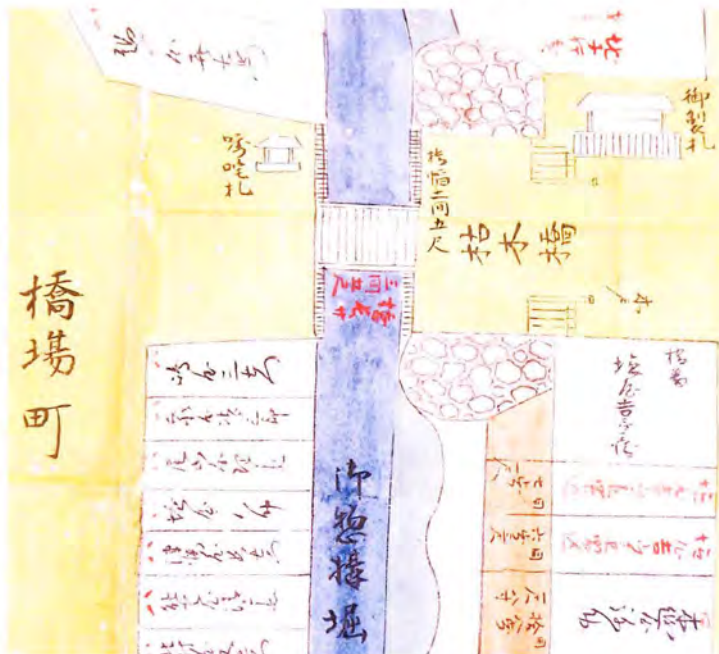
枯木橋渡り四間幅三間左右惣構土居川縁石垣菱垣とも  
 一橋本橋渡り四間幅三間左右惣構土居川縁石垣菱垣とも  
 一岡本橋五間幅三間左右惣構土居川縁石垣菱垣とも  
 一岡本橋五間幅三間左右惣構土居川縁石垣菱垣とも  
 一岡本橋五間幅三間左右惣構土居川縁石垣菱垣とも  
 一岡本橋五間幅三間左右惣構土居川縁石垣菱垣とも  
 一岡本橋五間幅三間左右惣構土居川縁石垣菱垣とも  
 一岡本橋五間幅三間左右惣構土居川縁石垣菱垣とも

金沢道橋帳(16. 78-10) 部分 嘉永5年(1852)



金沢町絵図(090-1034)15 部分  
文化8年(1811)

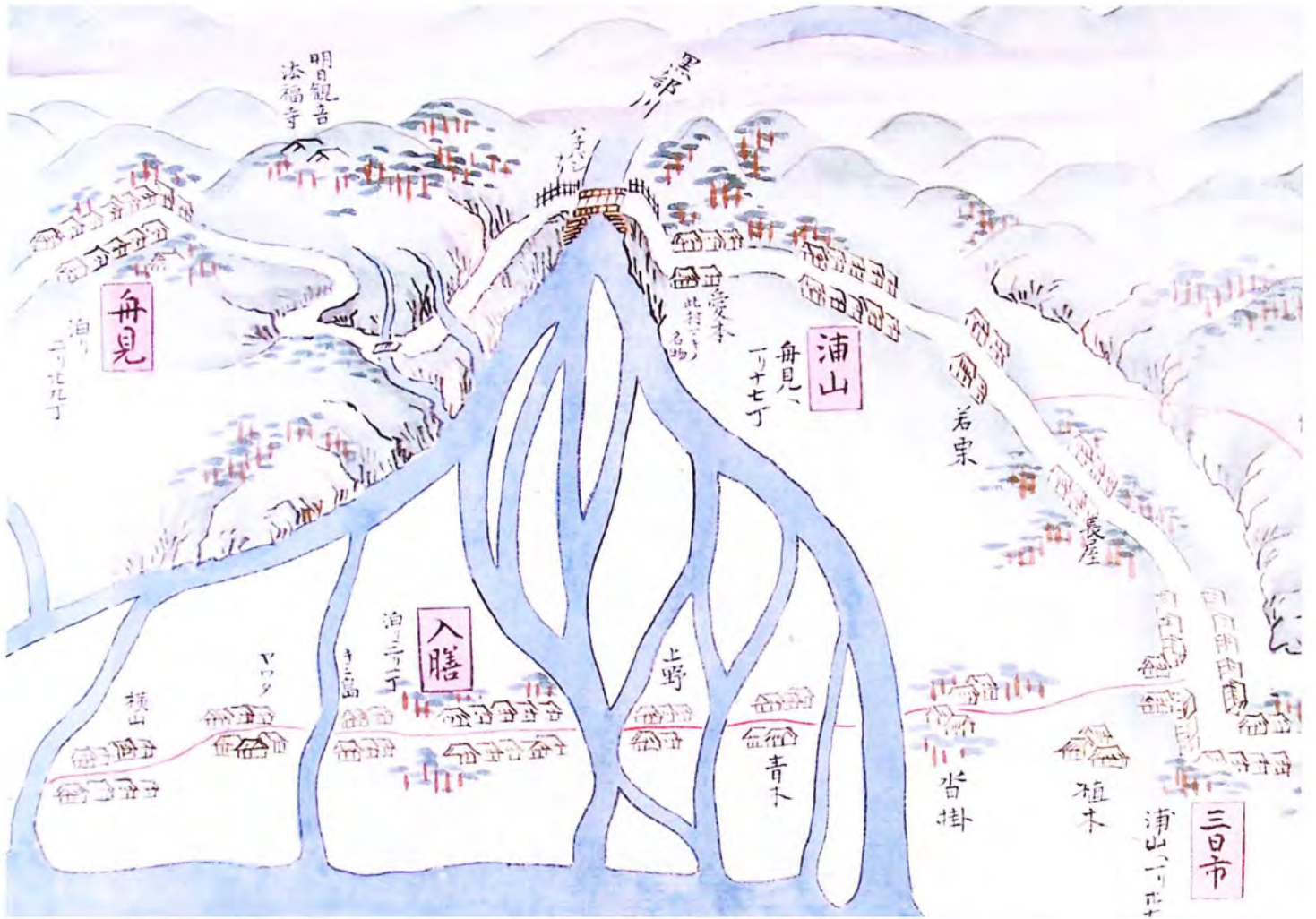
城下の橋



金沢町絵図(090-1034)24 部分 文化8年(1811)



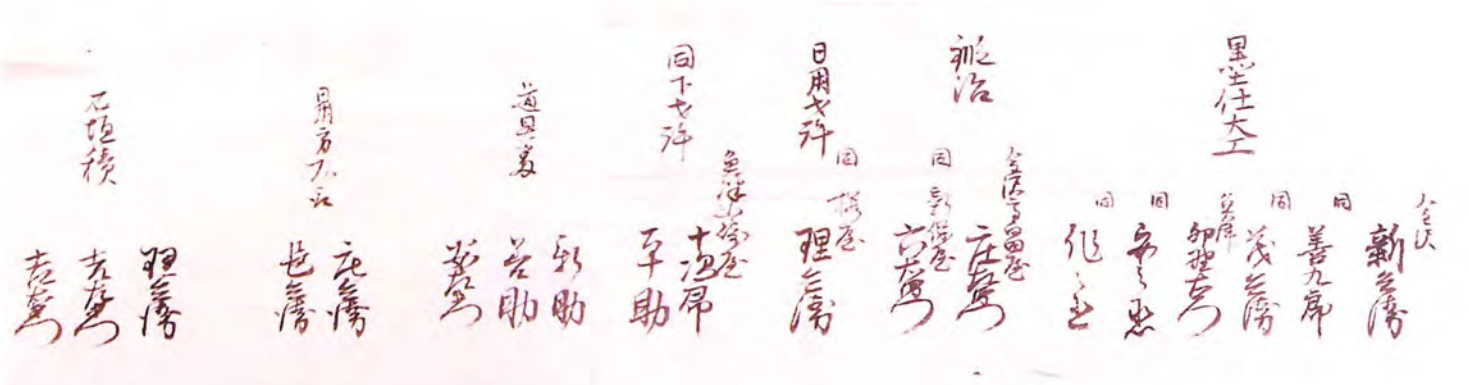
愛本橋



下道中絵巻(090-379) 部分

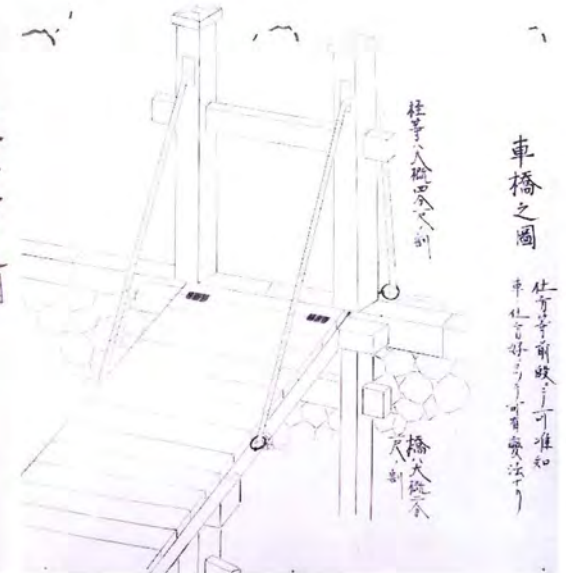
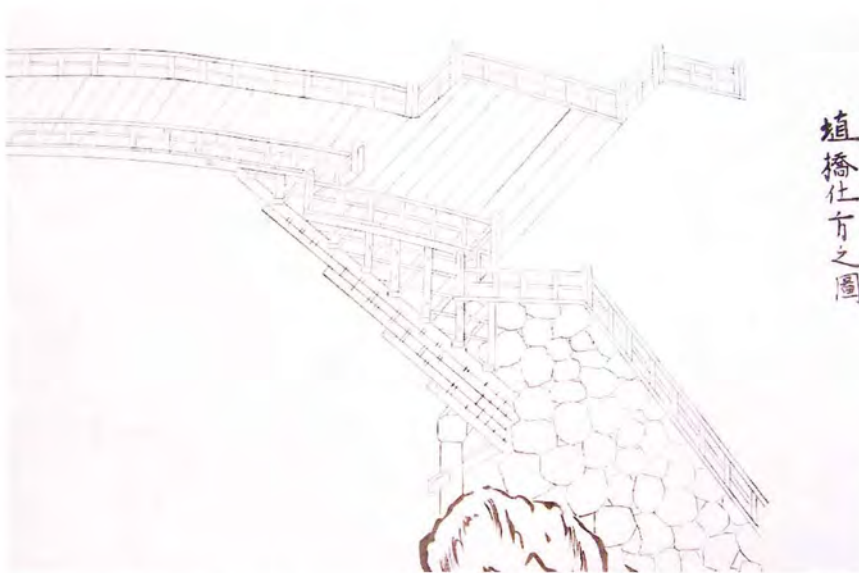
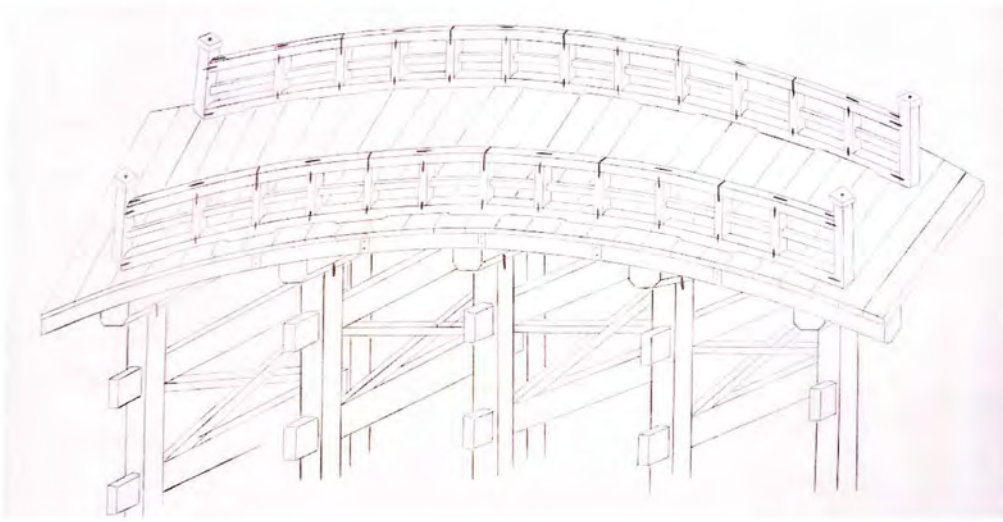


愛本橋絵図(18. 6-72) 文政3年(1820)



越中愛本橋棟札写(18. 6-125) 寛政11年(1799) 部分(裏)

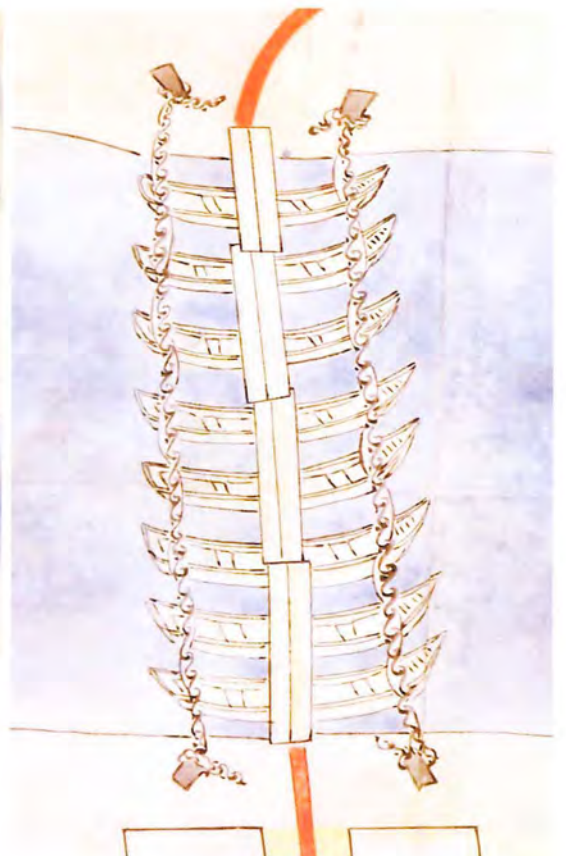
様々な橋



刎(埴・ハネ)橋

造作弁図解(18. 6-4) 部分

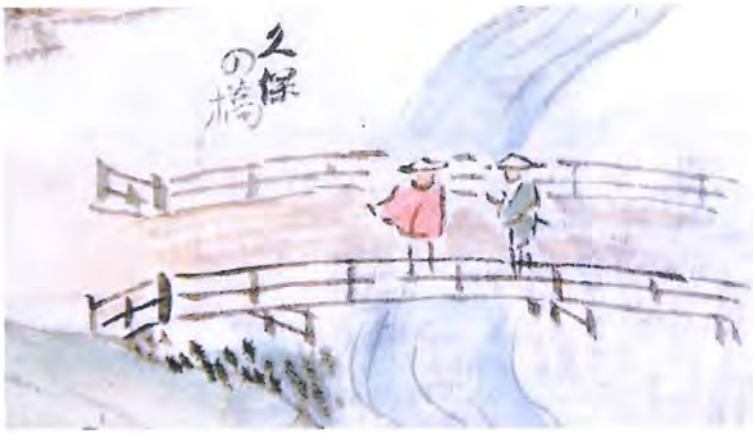
車橋



越中国富山古城之図(16. 19-12) 部分  
寛文7・8年(1667・8)頃

船橋





吉野邨領十景記行(16. 93-39) 部分  
伏見川に架かる久保(窪)の橋  
寛政4年(1792)頃の様子

吉  
○常月より洪水流す川小橋は破損  
候へども是れより土橋に造りて  
以用候し是れ別段に金取付  
候へども是れは土橋に造りて  
私田古土橋といふ板作りにて  
たて置候と申すは是れ砂利  
を敷候趣あり 卷十九 可

(元禄一六年七月)  
十二日  
○当月三日之洪水ニ淺野川小橋、致破損

依之前々無之候へとも土橋ニいたし候へハ  
御入用減し候旨ニ而、則伺之所、僉議次第  
十日  
と候 仰出、土橋ニ仕候様ニ可申渡旨御請 十四日ニ

私曰、右土橋とハ、敷板代りに抄・そ  
たを敷、藤ニてかき付、上ニ砂利・土  
を敷候趣之留あり 卷十九 可考

袖裏雜記零余録(16. 28-29)8 部分 元禄16年(1703)

一、小橋は、草槓材木ニ而懸候と土橋ニ  
いたし候兩様之図、御作事奉行  
書付、土橋之御入用かろく候故、其  
通ニ可申渡と、則其趣申上候、其以  
後、弥僉義仕候へハ、手寄之山ヨリ松  
木取寄、懸候へハ、土橋と御入用ハ同事  
ニ而土橋ヨリ者以来迄こたへ申旨、右  
奉行申聞候ニ付、御入用ハ同事ニ而  
以来こたへ申所久敷候へハ、可然儀と  
致僉義、其通ニ申付候

(宝永四年)  
一、小橋之儀、草槓材木ニ而懸候と土橋ニ

いたし候兩様之図、御作事奉行  
書付、土橋之御入用かろく候故、其  
通ニ可申渡と、則其趣申上候、其以  
後、弥僉義仕候へハ、手寄之山ヨリ松  
木取寄、懸候へハ、土橋と御入用ハ同事  
ニ而土橋ヨリ者以来迄こたへ申旨、右  
奉行申聞候ニ付、御入用ハ同事ニ而  
以来こたへ申所久敷候へハ、可然儀と  
致僉義、其通ニ申付候

袖裏雜記零余録(16. 28-29)19 部分 宝永4年(1707)

## その他展示史料

加州郡方旧記(16.63-77 15) 部分

寛政9年(1797) 犀川橋架け直しに伴う、松木持賃金などの入札の申渡。

犀川大橋々台石垣絵図(19.9-139)

絵図とともに橋台石垣の工法について、浅野川との水勢の違いからも記す。

浅野川大橋絵図(18.6-68)

天保8年(1837)12月から翌年3月の架け替えの時の絵図。

前田貞親手記(16.41-82 20) 部分

貞享5年(1688) 浅野川大橋架け替えに伴い、小橋・仮橋も含め工事歴等について記す。

加州郡方旧記(16.63-77 10) 部分

寛保3年(1743) 浅野川小橋の下流に有料の壱銭橋(一文橋)を架けるための願書。

富山城之図(13.0-115)

富山城図(16.19-13)

越中愛本橋棟札写(18.6-124)

安永2年(1773)の架け替え時の棟札の写。

愛本橋建築之図(18.6-71)

15枚の図面。

日曆(16.63-76 10) 部分

明和2年(1765) 儉約のため長さ3間以下の橋を土橋にするよう命ずる。

卯辰山開拓録(13.0-30)

明治2年(1869)刊行

枯木橋図面(090-1096)

※展示史料と記載史料が一部異なる場合があります。